太皷鏞
螺
外幕
幕裁之飾
軍幕

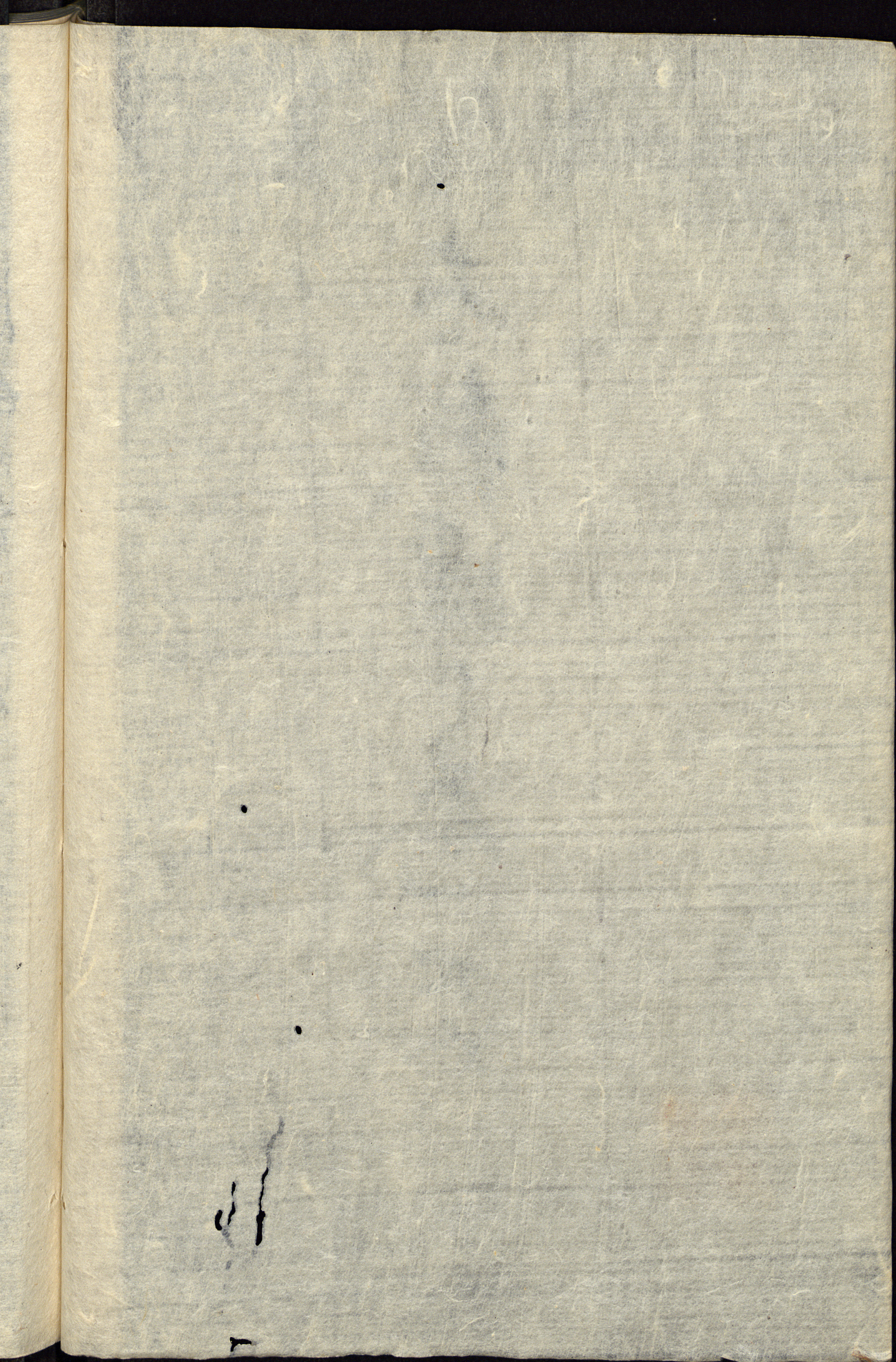


安藤田

太鼓譜之巻　九人







太鼓攡之巻

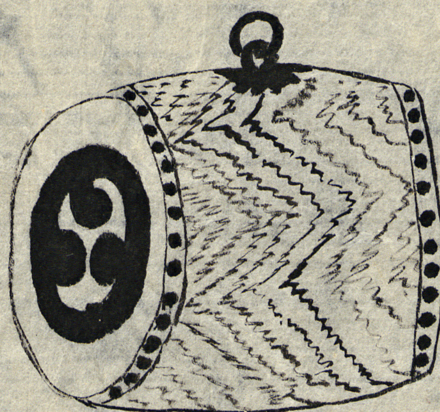
太鼓ハ勇之定之旗鼓ハ将の利要
聞ゆるき度ニハ是を割とあハ十万の
兵と以ても一のことくなしもちもの之
凡主将の太鼓ハ胴を黒塗金銀の
蒔を手ノ葉丸両ニハまく左巴と畫や
胴の表ニハ環と手紐の緒と付棒アリ

通一二八して卑事なり又壱人
肩ニ掛てもち又大類ニても鼓ニて
此うし又諸將の太鼓ハ本地の胴之
鉄の鋲を打黒ニて右色を畫也
其外ハ常ニ同し大字の太鼓ニは
龍を畫候又人足ニ爲くハ龍の紋
摺て神を畫也

一 太鼓 径一尺二寸胴ハ長二尺二寸虎乃
皮両面あり両方ニも打平也之又之

太鼓ハ定法なし　先ツハ胴の長一尺一寸
径一尺二寸も有之
一　撥の先ハ一尺廻七寸余　柄の長
一尺二寸　柄頭より四寸置く腕掛の穴
をとほる　腕掛の長八寸　ひもとひね撥と
同し　柄も同草小も長小ク下
又ハ長八寸　太さ二寸余廻　腕要の緒を
貫下し　枹ハ厚朴（ホウノキ）楊櫨（ウツギ）なとにても
一　鐘ハ大小不定之　撥ハ太鼓と同し

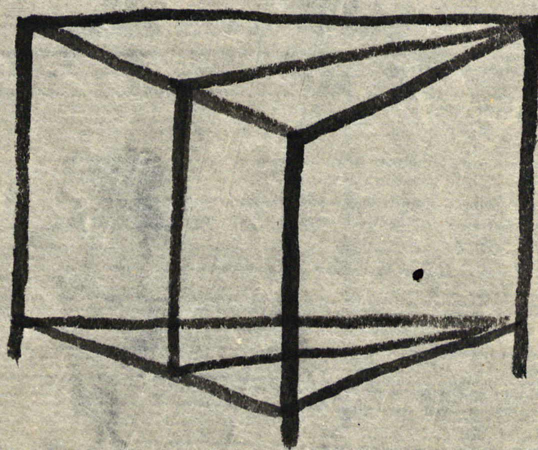
又軍鐘ハ常より小なるを用ゆへし








太鼓の臺


鏞の臺

右一巻者當家傳來之深為
秘書雖不浅依學習之勞
令授与之畢用而之外猥他見
他言有之間敷者也

法螺巻

十四

支贊嚩者天竺毘羅國之山嶋動音有
其聲猶音羅摩之丁附舍利弗悟之謂之人
山有一洞孔舍利弗入茲曰何故獨鳴動耶
菩曰昔過去代大通智勝佛涅槃之有作語

被放佛 然業遠脱得見往蘇來随 高
界殊犹不能見風志不成貪欲害常
在世中深世事歎今既逢佛徳願令免
世之舎利仏合掌彼校一句之文此附大
哲而大象死于附舎利取此見其形
三八字也聲而吹之五音積聴觀之大気之
序不運是非集猶是大唐運来絲
周之二流法師 法自戒人不知之能通野人

權現傳紀伊國粟田邑地苑權現留之夜
優婆塞賞之以性為悪鬼驚恐敵武
家亦用之家可亂者亦十年經日為欲
昌尋一切之諸天善神者當年寶螺也蓋緣
曰為螺之物下命令觸聲皆覆令散而
明亮聞聲也為消者不可有不用之云々





一吹法螺之文云我今吹法螺遍至三千界
衆生悉聞之皆當見阿字　羽黒山秘鏡
又云我今吹大法螺音遍至十方三千界
經耳衆生滅罪障　悉皆當得通達云々

一法螺の緒長サ九尺八寸又ハ薄紅梅

一用筆見辨之武士義辨之時ハ萌黄

相山伏

一吹初正月十一日武具を備年徳方ニ向て

大将軍ハ向ひ貝乃口を左ニて紙を二重

小さくみ緒を下より又獲此法ニて行貝

乃内へ息を入二端二度九より二秋左七

吹納る年中無異也

一時の貝ハ一番丑別軍神の方ゑ向て吹へし
子午卯酉九丑未辰戌ハ一寅申巳亥五
二番富有馬を飼金貝を調ハ三番卯別
人数を出旗の前ニて吹春夏ハ湯護
存て吹秋冬ハ法旗乃存て吹へし

一壱番貝七端七段平九ツ軍神守護
と観念して長強後張ニ吹勤行也

一弐番貝六端六段二十五菩薩新向武士

守護と観念し静かにして吹

一 二番貝数不定、兵士作小吹之

一 寄貝攻の時吹出平調四返ニ譜之

一 調伏の時黄鐘貝逆吹り　観念有之

一 用心の時双調音七ツ三ツ数半五ツ三ツ六合

九曜暁四ツ三ツ但相当により数不定

一 勝の時一越ニ返ニ譜勧請般若返合

乃時七宛別ニ譜吹之

一軍神道具ハ初長張弓浄静後端雅
一勝て後又萬事に於て又動諸具を以て
加とし押貝青貝ハ以て主とし候こと
ねつゝ此之青貝大鳴を用ゆし左に吹き回
しく吹捌之一順ハ納め改教一端ハ一切の
吉教右軍神に祈り送又諸軍定強進
臆醒服気附同居具小大事此役儀之
むねへ可撰其人者也

相可撰其人者也

一貝乃緒二重ニ而三尺八寸結様ハ本式
結貝ハ口三寸渡して後上ハ組の綱とも云
急用ハ时七て小掛るゝ之貝の腹上下て
吹出す時ハ入レ也活貝様用
活貝と云ハ緒ニて文甚勝を利
神功皇后之韓を責給ひし時香最
大明神の御をはされしと之是合天地
圓満之行当相也吹出時ハ人ニ二つと吹

是天地人の三ツを知るへく之

一 法螺ハ諸勢を進退させ軍神
天降遠吉凶は亀卜の能く其人誠
撰ハ軍師向を合て戦を勤事也
の義ニ大事ニ候なるより卒尓ニ
不可許之者也

一 前陣の時ハ上意のゝ不佩楯出し
右方と常陣とも申く也儀式ハ調て後

法螺と二三ヶ所川ニ首途ノ時ニ吹
道具ハ常ニ佩ル法螺也
一寄り貝ハ早ク静ク後ハ急ク吹ク也
吹リて吹ハ一ツ貝ハ遅ク静ニ後ハ
如同吹也
一貝ハ是阿字之實相解吹ク故ニ諸佛ハ
聞トシテ仏ニ掛也
一新城ニ入儀式ニ吹ク貝ハ忠有リ法螺ヲ吹

入中川軍神の方へ向ひ帰陣の貝を三声
吹る也後ハ其時陣鐘鉦鼓色何も三声但
鉄炮ハ不止也此ことくすへき事也とて

一於陣中貝しぶり不鳴事あり其時ハ
始るとうち護身法九字切其後ニ
何もの神をも愛念して不浅祝言
すへし

一勝軍鉄炮の時貝ハ役人大将の

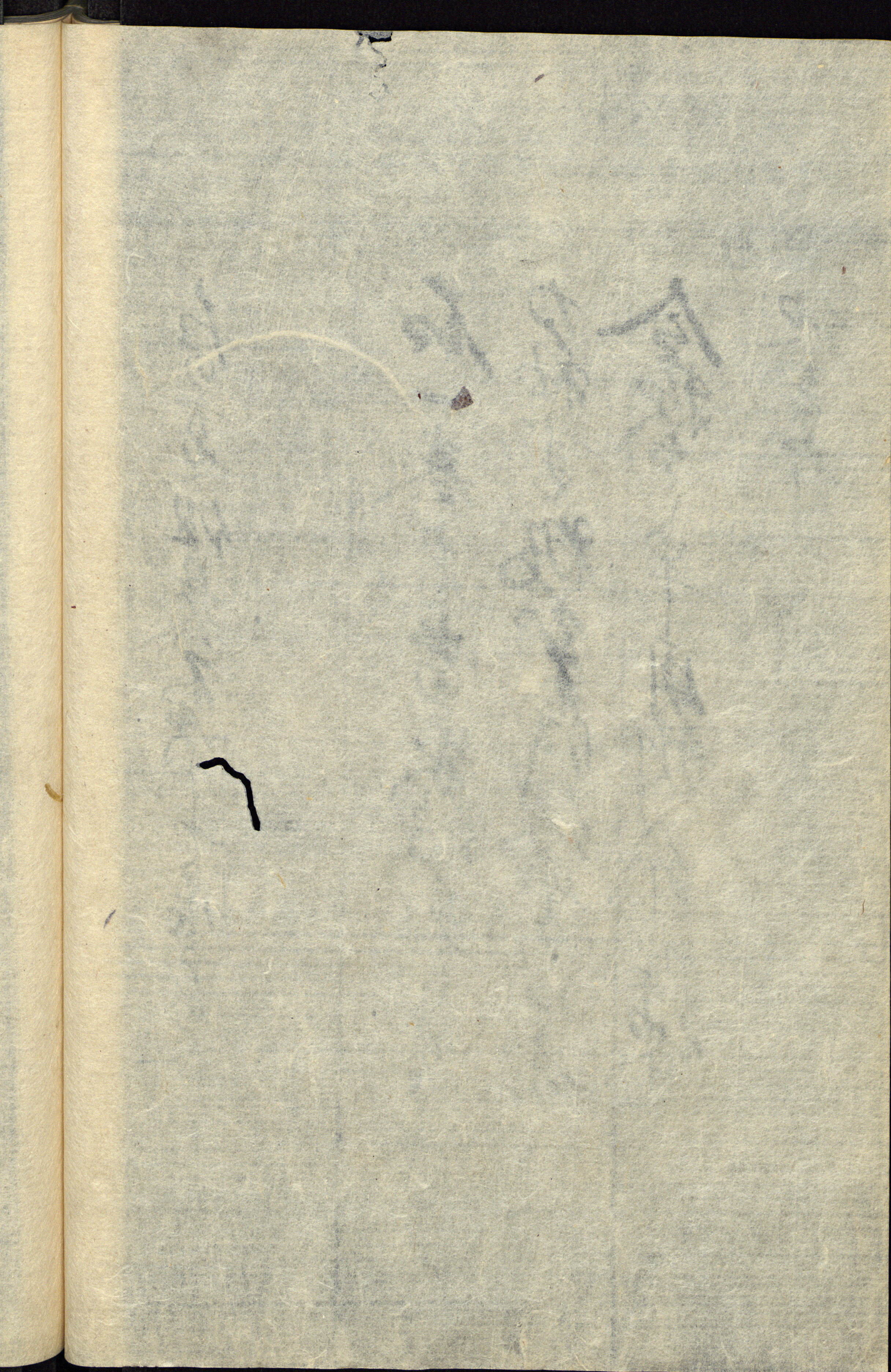
存意也但是ハ不限七五三之

右一巻者当家伝来之深

乃秘書雖不審依学習者

令授与之畢用部之外披覧

他言有之間敷者也



外幕之写

二

幕一流之書



夫幕者天照大神大六天之魔王与御取合時魔王少神違悪



眼而奉見其眼光、達于神驚
歎給照大神之御袖ヲ于神達、
覆給魔王眼光為薄而于神
達物給其時太神不可負尓被
御没其此方幕ト云也一秦秘
事大変究貿

幕田町之大事

一流之次第 并圖

大將軍之幕串者十也

表加勝字也

臨

摩利支天梵大

室　辟　奎　婁

乳廣サ六分長二寸八分田町ノ折一寸二分合壱寸縫目ハ

町口傳

命田町下縫糸五色上縫白糸九右口傳樴縫也

胃 昴 畢 觜 参 井 鬼 柳

正觀音
竺公帝尺
降三世

茉師
開
軍荼利

阿弥陀
有大威德
四天王

石 飛

貪狼星 祿存

巨文星

星 張 翼 軫 角 元 氐 房

釈迦 皆 金剛夜

大日 陣 大黒天

父夜女

𑖨𑖾 𑖪𑖿

星 廉 貞 星 破

文 曲 星 武 曲 星

心尾箕斗牛女虛

列聖天

二十八部衆

左

廿八宿

衆

軍星

氣物見驗

圓

[illegible]

范
乳穀之上　三十八表八下　二十八ノ傳

[redacted]

慈神　ノ手繩　金剛童子不動明王

前

幕加持口傳主人具足而唐櫃腰ヲ
懸東ニ向師ハ南向東ニ幕ヲ十ケ先

護身法次ニ九字劔ヤトテ以テ幕加持

[illegible]

摩利支天呪百返唱テ急々如律令ト可唱

千金莫傳究賢可秘ゝゝ

一 幕ニ可畫字十五在右秘支成ニ不及

畫置ニ可口傳可在[illegible]ゝ寺可申也

一 幕大支次第布五端ハ手縄可
成五端ハ幕一端ヲ巳割テ一黒一ハ白
一青色ニ可皆桐紋ル一ヲ三割テ一紋ニ
遠侍而向テ玉女之方ニ可裁之
可向周神屋利刀ニ可裁也
一 縫支手之年之人役也布長廿三
振尺人也

一 手縄卅六尺左右三尺宛口傳

一 牟々幕布作更色男貽女不然者右女不娶者買布二丁可作其時ハ縫キ布未而幕尺ヲ定長ヲ可手縄

一 數敎卅八ハ表天卅八宿卅六ハ表地三十六人斎ヲ表ス[illegible]大將ハ卅八ヲ

用事也

一　劉之支於ハ宿表儀若ハ法華表

於ハ品ヲ作精手調之是表儀也

一　幕串ハ屏ヒ常ハ本也歟ハ大

龍王几ハ尺歟

一　幕加様之支本尊ハ情摩

利支天亦音人我氏神書調申ニ

勝軍本ヲ花立洗米香炉御
酒可備主人ト幕龍子一具ト
銚子提蛛形可成者ハ一番ニ打
熨斗二番ニ栗三番昆布ヲ渡
也肴取心持打手勝悦ト可取

一 師道ハ祝ヨリ前ニ護身法次ニ
九字其後釼ヲ以テ一[illegible]

陣之列〻本臨二兵三團ヲ構
ス皆六陣七烈八左九前餘勝
字ニテ總幕ヲ招スルナリ
一
與氏而幕ナ支不可有但有
氏人被許氏可ナ示不ナ不
可有可秘〻

小笠原大膳大夫
長時

同　右近大夫
貞慶

小池甚之丞
貞成

珍本三品楽一冊
正蔵

右冊一巻於当家雖為御門秘事
任多執心懇誂遂之努々深不
可有他見者也

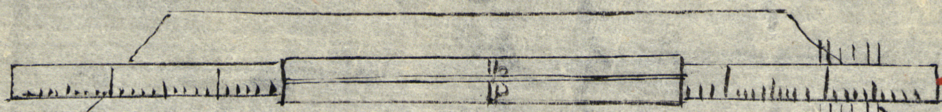
延寶 （花押）

帯裁之傳　廿六

幕裁之傍物

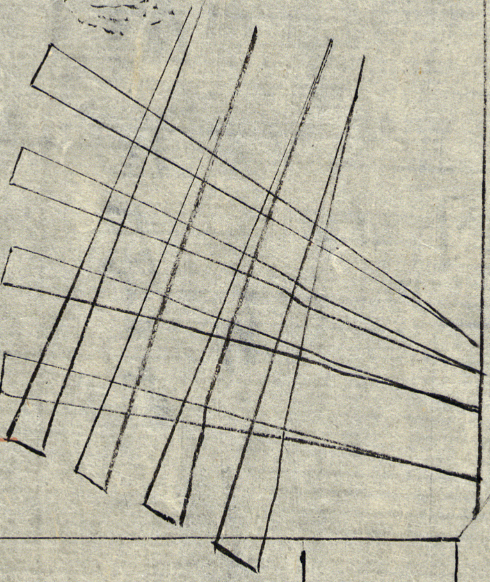
物さう

幕裁之傍物









一長さ	弐尺七寸
一横巾	七寸
一厚さ	弐寸七分

右幕之儀猶右之記之通ニ候
其方之ハ役儀有之候者也

小
同
小
頭

右此巻御門跡尚家判之儀為和筆
依御執心遂之候授訖妙之隙思く
以くれこ可秘之也

陣幕秘伝

九一

軍幕秘傳

丈幕ト云ハ象形ヲ天地ニ合セ一年ノ十二月ニ春夏ニ合ノ二ツ而布六端ヲ以盖ニス是ヲ六ハニノ也上天白星中天白星ニ属ス合生子名白陽ト之陽ト書ス是ヲ二人日ニ書ス作ス
字ニ夜ニ六端ヲ一団ト取一端ヲ裁二ツ裂ス左ヲ敵

作幕ハ以縄ヲ以家之旗昔ハ象形ヲ定
縄ヨリ初ル幕定　布豈不湯
主之事ニ為ス勝守於軍陣ニ幕
此先ニ宜ク畢ヲ白横用幕　布則
竪ニ合横之以テ九字ヲ表スル者也雖
只識而得勝利者是為軍勝而已
矣
一 幕小紋ト有ル事　主ノ家ノ紋也
帽子為須識の幕ハ小ト冠布ト事

布といふ事究聴く紋在之七色の布
かつまといふ次男に冠とらして下口
布に付るゝ膺子にかゝる中に布あまりて
近代の形く至代は将軍の御幕
まもり家布かつりに付ては紋数分別
或ハ二千布ありて
一幕仕立之事　吉日良辰を撰て布七幅
唐穂の幕ハ〔?〕床ハ重し　幕指
の親式　出陣之間ハ幕と幟ハ要ハ

向く古端の内長布一端より二つに裁て
左の巻に縫り幕のゝ縄すゝ縫ハ
綴なる之左に別の布を二寸出し縫り
あろふに入色し幕の乳白時に通も縄も
白し地青く絞白柄縄も通も黒白
表の二色之幕を裁まく其端の内短を
五布にして乳を長りカに先に裁し
縄も通も結もカに裁し
一幕を縫ま下より通し冠の布と

令此帋を縫合せる事 絵湯の糸にて
二重り縫者し 絵湯糸とは麁絞
の糸の事也 絵の糸にてかゞ縫し 縫目を
下へむけく其上を湯の糸にて表より
と縫を事する也 糸の〻り 如さ常の糸
二ミしかけ也 目ほの狗ん合せ通りに
ある也 女の端より三尺ほと置て袖より
狗ん合せて縫也 縫付の糸と合わ
みて切へ 以上布の布此耳を細可に

多様進こそあれと壱尺八寸うあく
手まゝ前のこしく進合へし
一 進の長さ壱尺弐寸くし廣さ
壱寸弐分ふ寸ち進立て八分壱寸。
⊠ 此進画し進の数八十也厚紙よ
廿八宿を書く進ゝ中ス て終し
角宿より初て箕幕と書く内より
外へ向て右の端の一番の進と角宿
此之進付つまゝ友の端とい進の

半分額表の方へ寺返し中へ絞紐と
へ入て可縫合し

一梅花の額ハ白布ニ而有之
と日月の額ハ云幕九の高端より二尺
額垂て内の長さ尺貳寸之菊とぢハ
去中ハ革之廣さ六分ニ裁て縫て合
小切ニ額也下二通の額廣さ八寸
紋をとつて内ニ菊とぢ同前ニとよ
二ツ下よ穿之表裏ハ何れも合り

一幕布の名水火銀文破と云又當布
命布 福布 縢布 冠布 胴布 中布
なとも云

幕の名所布の端を風折ともいふ布の
端を水引破と云 幕を天門破と云

一幕串 昇法之長サ八尺守幅とさ
六寸弐分ばかり也 八角はしり八分と云 鉄
切籠之形より二寸下に折竹をさす・
折竹の穴二寸 折目六分程之串入ル

鯉高九寸より七寸迄串ハ八寸也

一串之事角尾より立羽迄幕とる

角尾より手羽迄ハ串平ニ挟也

石突ときり垂下しそれより先ハ

ことろハ小串とうろ之葉手ニ依之の

一同寸ハ之程ハ串とうろ之處ニ節

それニ串小骨とヽして垂下ヽ串ろう

串同寸よりハ串を横ハして一長と

又八寸六寸ハ立處ニ付かけてよく

すくひ知る年頃右の陣之布に
長短有之短冊串ハ帳より定之
一幕一帖とは二つの串之二間より家居
の帳と云大将の陣屋の前に立て
一つをは二帳ともそ門の合よるし
立て常には二間と一所に立帳を
時は角居丸前と一同にうちて立
幕つれひとは一重と云つ言とかる。
かくて之絶幕とつきて升不て始

二幕之事意得へし

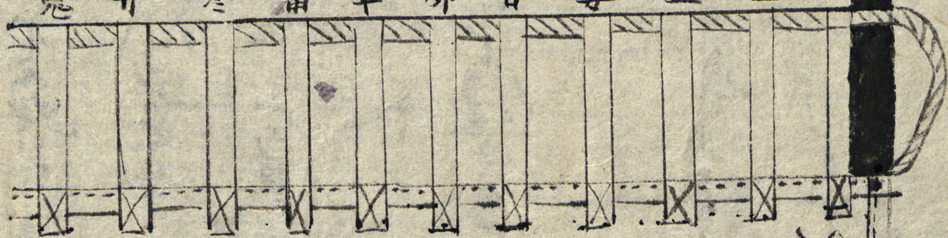
一幕張の事　大将常ニ居ハ凡物見之の
下より張へ　秋ハ月の出の下より張へ之
実検の時ハ大将ハ左の風形のゆより張
たの水の夜より　左之事へハ左右ニ揃へ
一出へきろ之事へハ其中へかハ張へ爲し
引ハ張る時ハ幕の際へさしより幕を
両手ふくきみわけ引へハ引揚て
張へし　閉へ時ハ結ひとめて外の方

我等者まくみ揚て引つき攻かゝる
越て〳〵おしまくる〳〵幕と内のまへ
し〳〵まし候と云

一 辻固の時ハ幕をまへ半をいたて警
固の者ハ通の方に居へし

一 舟幕といふハなしらかにて常ハ牆（カキ）
より外へもしらうし舟軍の時ハ牆より
内へうらして幕布数こして
牆ハ長短いろ〳〵あり

一 幕と書事ハ段々と書之意ニ候
見物の書事ハ此例有之
一 幕乃進物紙八ツ折の五七の折ハ本高と
のことく
一 幕ニと仕立之事古見金銀箔事ニ奏
と用也
一 幕ハ有方用ニ故ニ舞人ハ不ニ存
ニ雑則能人ハ小ニ許ニ用下し

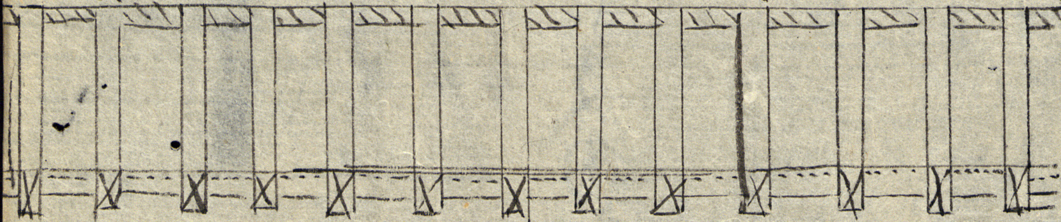


日

臣門

追猿

文曲



月

廉貞　　　　祿存

破軍　　　　武曲

一幕法楽にて狂言半ば迄
勤く及義かと可知之

酒主人

人

具足を着く
唐桟小腰かゝる

様形
瓶子

様形
瓶子

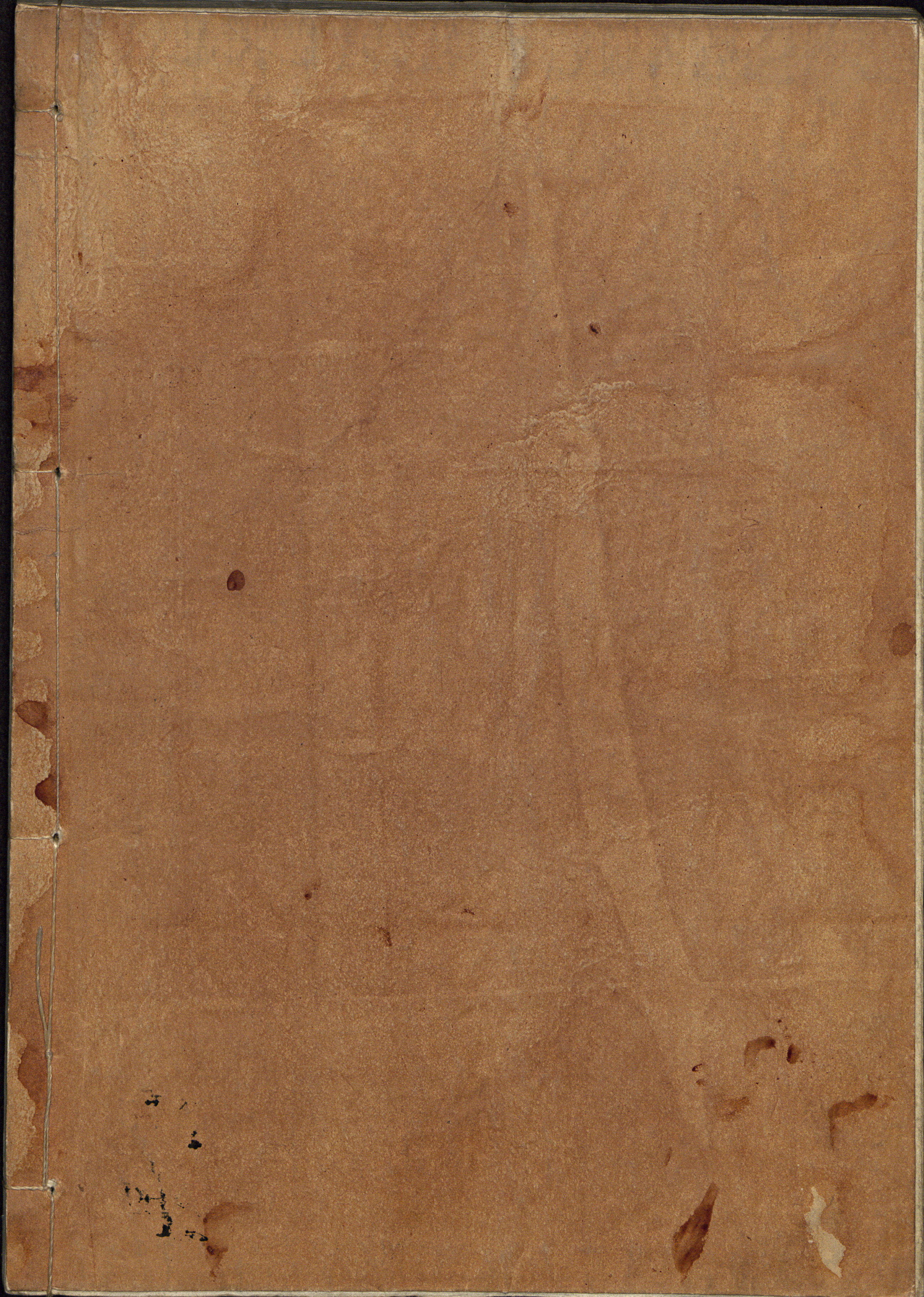
様形
銚子

様形
提子

北
面師

南

右一巻者當家秘本雖
為秘抄就芳志之深数年
聞于聴習之功令授与之畢
用所之外猥努々他見他言
有之間敷者也





H+K 2

GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart

15.01.2002